

とが最初の活動となった。10分後に木更へ入ろうとするのを指揮隊が制止するこ たが、救出に手間取り、14時生存確認は比較的すぐにでき 救助犬2頭が捜索に着手 救助犬が到着 現場

訓練を終えて「災害救助犬ネットワーク」

DRDNとREDOGは2018年に連携協定を締結していま す。令和4年度はDRDNがスイスITWに訪欧しました。今 年はREDOGが来日しましたが、その目的は日本の災害救助 犬の認知、意識向上とスキルアップ、もう一つはREDOGが 日本の災害支援で来日したときに現場活動が効率的にできる ように防災機関、救助隊との交流、理解を深めるためです。

今回行った訓練の事後検証は、これから3者で行う予定で すが、それぞれが改善すべきところがあるはずです。私たち 救助犬は、災害場所によってどの消防と連携するのかわかり ません。消防機関は全国700余ありますが、そのすべてと機 能的に連携できるかは不透明です。救助犬の能力を効果的、 効率的に活用することができるように、消防本部や現場部隊 の理解が進むことを願っています。

1人が行方不明になったとの新た捜索救助の作業中の混乱に乗じて

クの救助犬を活用して実施。

要救

から始まっ

、
企認で

捜索は災害救助犬ネッ現場の指揮は渋川広域

得られず、14時救助隊が資器材助犬が反応は示すが明確な告知 1時3分に救出。

スイス捜索救助犬協会の 来日を機に、災害救助犬 ネットワークがサーチ& レスキュー研修会を実施

に実施された災害救助犬の育成や災害現場にお日して参加した。REDOGの3名は、午前中

年後の訓練では、設定 (要救助 事例の紹介といった講義の講師

(要救助

を担当した。

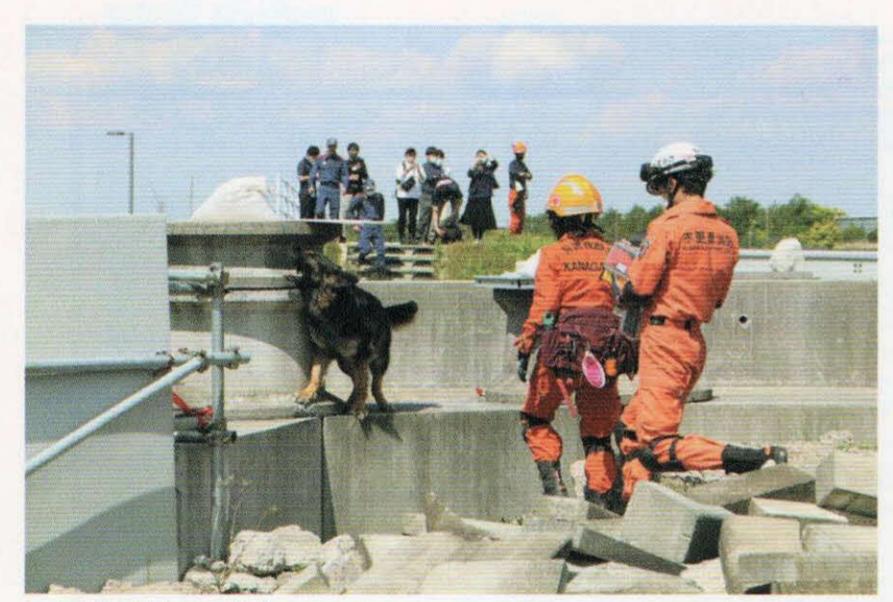
いたLinda Hornisberger氏など3名が来

「月刊消防」編集室

表 参加者内訳

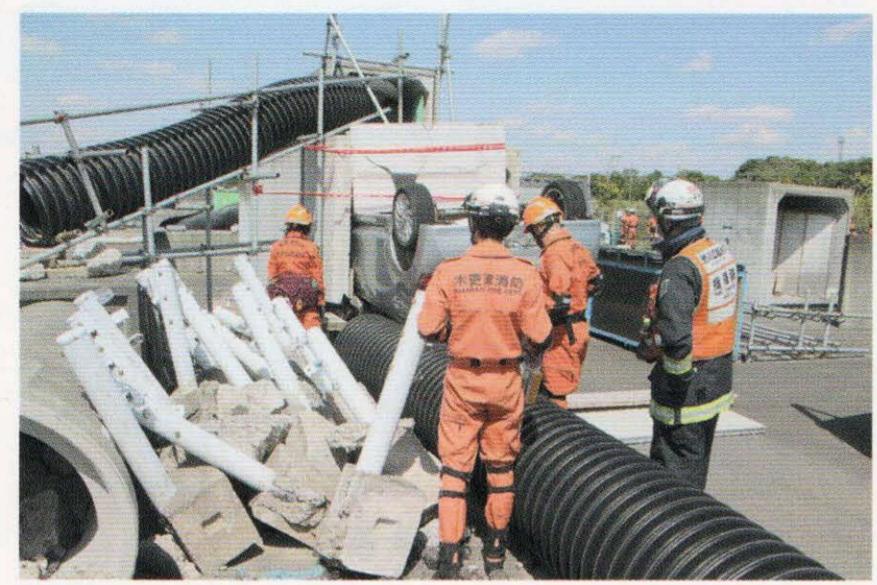
スイス捜索救助犬協会(REDOG)	3名
渋川広域消防本部指揮隊	4名
木更津市消防本部救助隊	15名
災害救助犬ネットワーク(DRDN)	15名
通訳	3名

ス捜索救助犬協会(REDOG)で捜索隊長を 今回のサーチ&レスキュー研修会には、スイ不更津市消防本部などから40名が参加した。 して参加さ





②の救出



③要救助者への反応を示す



③の救出



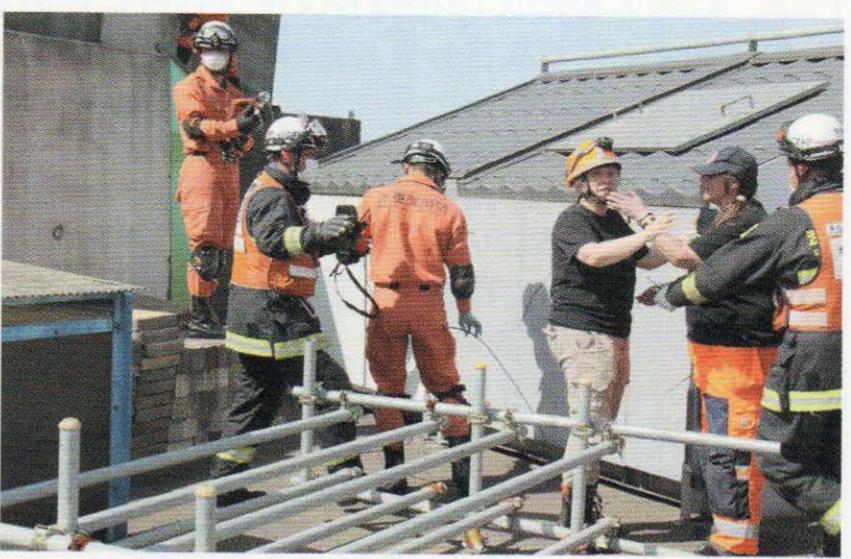
③要救助者の場所を特定する



訓練を実施した「千葉県消防学校震災訓練場」。写真上に付記された数字は、要救助者がいた場所を示す。



①の告知



要救助者を早く救出するよう詰め寄る関係者をなだめる指揮隊。